

事務事業名		日本赤十字社岩手県支部大船渡市地区運営事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	04: 安心が確保されたまちづくりの推進			事業期間		予算科目 会計 款 項 目 事業	
	施策名	12: 地域福祉体制の構築						
	基本事業名	01: 自立を支える地域福祉推進体制の充実						
所属	根拠法令	日本赤十字社法			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入			
	部課名	生活福祉部保健福祉課						
	係 名	生活福祉部	電話 0192-27-3111					
			内線 185					
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 赤十字の基本原則実現のために社資募集をはじめ、救援物資の交付、災害救護セミナーの実施、血液事業への協力、広報活動、赤十字奉仕団・有功会の運営補助、有功章伝達などを行っている。 運営費は、赤十字からの補助金で賄われている。					全体計画 (期間限定複数年度のみ)			
					総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金	
							都道府県支出金	
							地方債	
							その他	
							一般財源	
							事業費計 (A)	0
					人件費	正規職員従事人数		
						延べ業務時間		
						人件費計 (B)	0	
						トータルコスト(A) + (B)	0	

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) ・日本赤十字社岩手県支部、血液センター、赤十字奉仕団、有功会との連絡調整及び事業協力。 ・行政連絡員を通じての一般世帯社資募集、訪問しての法人社資募集。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ		名称 単位 ア 社資納入件数 件 イ 献血回数 回 ウ	
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市内一般世帯、市内協力事務所・事業所、大船渡市赤十字奉仕団、大船渡市地区有功会、献血協力者		対象指標 (対象の大きさを表す指標) 名称 単位 カ 市内の世帯数 世帯 キ ク	
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) ・赤十字社の人道的支援活動に協力する。		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 名称 単位 サ 社資納入額 (一般、法人) 円 シ 献血本数 (200、400、成分) 本 ス	
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) 積極的に自立を支える活動をしてもらう。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (目標)
投入量	事業費	単位						
		千円						
投入量	事業費	国庫支出金						
		都道府県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源	0	0	0	0	0	0
		事業費計 (A)	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	2	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	850	850	850	900	900	800
		人件費計 (B)	3,400	3,400	3,400	3,600	3,600	3,200
		トータルコスト(A) + (B)	3,400	3,400	3,400	3,600	3,600	3,200
活動指標	ア	件	10,025	9,771	9,483	9,534	8,589	9,700
		回	87	85	85	72	65	75
対象指標	カ	世帯	14683	14965	14965	14,476	14,908	14,476
成果指標	サ	円	7,628,000	7,436,404	7,205,650	7,734,000	6,950,000	7,436,404
		本	995	998	998	991	1248	980

事務事業ID	0252	事務事業名	日本赤十字社岩手県支部大船渡市地区運営事業
--------	------	-------	-----------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

スイス人のアンリー・デュナンはイタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで戦争犠牲者の悲惨な状況を体感し、負傷者と病人は敵味方の差別なく救護などの必要性を訴え、この考えに共感した人々によって、国際赤十字組織が誕生した。日本赤十字社は、博愛社がその前身となり、1886年に日本政府がジュネーブ条約に加入したことに伴って、日本赤十字社と改称した。博愛社は、西南戦争の折、救護団体による傷病者救護の必要性を痛感した佐野常民と大給恒によって創立された救護団体です。この博愛社の活動は、人道・博愛という精神文化の基礎をわが国に植え付けました。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

日本赤十字社は、日本赤十字社法に基づいて設置された法人で、各県に支部があり、支部の下に市町村を単位とした地区や分区がある。市においては、福祉事務所が事務局となっており、大船渡市の場合も、福祉事務所が日本赤十字支部大船渡市地区となっている。市職員が、市の業務として担当している。市職員の人件費を除く活動費、事務費は、県支部より交付される。その原資は、一般市民や法人から集めた社資と呼ばれる寄付金である。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

活動団体(ボランティア団体、任意団体)の団員は、定年後の人がほとんどで、若い世代の加入がない。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 災害時の救護活動など安心な暮らしに貢献しているので、結びつく。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 岩手県内では、市が事業を行うこととされている。町村においては、社会福祉協議会や町村で行っている。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 制度上、対象者が定められており、適正に運用されている。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 制度上、対象者が定められており、適正に運用されている。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 制度上、対象者が定められており、適正に運用されている。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 国の制度により市町村が実施する事業であり、他の手段はない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 県支部からの補助金によって、活動しており、削減の余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない [理由] 県、振興局、社会福祉協議会等へ業務を分担する。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 災害救護や奉仕活動であり、受益者負担を求めることはできない。

事務事業ID	0252	事務事業名	日本赤十字社岩手県支部大船渡市地区運営事業
--------	------	-------	-----------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 日本赤十字社岩手県支部の指導の下、大船渡市地区として、順調な活動である。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 本年度も継続して協力していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 なし																							

	(職 名)	原則として施策の主管課長	(氏 名)
4 事務事業の2次評価結果	2次評価者	保健福祉課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 赤十字思想の啓発・普及に必要な事業であり、今後も、市民の協力を得ながら継続して実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
